

「平尾小学校の種子島踊り伝承活動の取組」

1 学校名

長島町立平尾小学校

2 学年・人数

小学4年生から6年生（計43人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

| | |
|----------------|--------------------|
| 平成27年7月～8月 | 老人憩いの家 平尾中学校体育館・校庭 |
| 平成27年9月～11月 | 平尾小学校体育館・校庭 |
| 平成27年10月29日（木） | 長島町文化ホール |

（2）発表の日時・場所

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 平成27年8月8日（土） | 十五社神社（母良木，浜漣）での奉納 *中学生1～3年生も参加 |
| 平成27年10月4日（日） | 平尾小学校秋季大運動会 |
| 平成27年11月8日（日） | 長島町文化祭 |

4 伝承活動に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）名称

種子島踊り（たねがしまおどり）

（2）由来

長島町では、毎年8月8日に集落ごとに伝統の踊りを奉納することを、「御八日祭り」と言う。これは、1565（永禄8）年3月、堂崎城主天草越前正を攻め滅ぼして長島を治めるようになった野田領主島津忠兼が、同年7月8日甥の島津義虎にだまし討ちに遭い、翌年、長島全土で疫病が流行したくさんの島民がなくなったことを忠兼のたたりと考え、忠兼の御霊をまつり、毎年大祭をして踊りを奉納したことに由来すると言われている。

種子島踊りの由来としては、種子島を治めていた種子島氏が、江戸時代に地頭としてきたことで出水に種子島踊りが伝わり、それが長島に伝わったと考えられる。

平尾地区に伝わる種子島踊りは、青年団が御八日祭りで奉納してきていたが、徐々に青年団としての活動が難しくなり、一時途絶えた。そこで、平成14年に平尾大字委員会で作られ、平成12年に出水郡PTA活動研究委嘱公開を受けた際に児童による種子島踊りを披露していたことなどをきっかけに、伝承活動に取り組むようになった。

（3）構成等

柴，ジャガリン，大太鼓，小太鼓，鐘で構成される。

ジャガリン以外の子は笠を，ジャガリンの子は頭巾を被る。笠には，顔が隠れるように白紙で作った垂れが付いている。柴役は法被，鐘・小太鼓役の女兒は浴衣に襷，大太鼓とジャガリン役の男児はさらしを巻き，浴衣に襷をかけ，脚絆，手甲，白布で編んだ綱を着ける。

ジャガリンが先頭で、横隊から二重円になりながら入場し、二重円で踊り、横隊に戻りながら退場する。入退場はジャガリン、鐘、太鼓の囃子のみで、二重円での踊りは種子島踊りの歌を歌いながら踊る。

柴を大きく振りながら飛び跳ねる所作で、稲に付く虫や悪霊・病気等の厄を追い払うという意味があると伝えられている。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年8月8日に十五社神社で奉納することは、地域の恒例行事となっている。そのための笠作りや踊りの練習は、保存会の方々の指導のもとに行われる。学校としては、参加学年の担任が保存会の方々と連絡を取りながら、練習日の決定、用具の準備、児童・保護者への連絡、練習時の児童管理等を行っている。練習は、夏季休業中に入ってから夕方1時間半程度行われた。

秋季大運動会で種子島踊りを披露することも恒例である。練習は、学校職員の指導で行う。

町文化祭での発表に当たっては、舞台ステージの広さや発表時間に合わせた隊形や踊りの構成を保存会の方々と相談しながら練習を進めた。より正確な動きで踊れ、歌えるように、保存会の方々による指導を受けながら練習を重ねた。

種子島踊りの際は、浴衣や脚絆などの衣装を着ける。着付けには、保存会の方々や保護者の協力をいただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

郷土体験活動として、総合的な学習の時間にオリエンテーションや笠作りを行っている。これは、秋季大運動会に種子島踊りの発表を採り入れたこととの関連によるが、このことにより、児童たちが種子島踊りに関わる機会がより増え、4年生になったら踊るものであるという自覚が芽生えている。さらに、このことが、希望参加である8月8日の奉納踊りへの参加を高めている。

7 取組の様子



【十五社神社での奉納】



【秋季大運動会で発表】



【町文化祭での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【教職員】

- ・ 兄や姉が踊るのを見てきているので、興味・関心が高く一生懸命踊っている。中学生から小学生へ、6・5年生から4年生へと教える姿が見られ、異年齢の関わりが強まる。地域の方々の期待感もあり、脈々と受け継がれてきていることを感じる。
- ・ 今年度は踊る機会が3回あったので、児童が複数の役を経験できてよかった。
- ・ 多くの児童が参加し、校区の伝統である種子島踊りを踊ることで、保存会をはじめ地域の方々とより深く関われる。

【参加児童】

- ・ 四年生になって踊れるのが楽しみだった。初めは踊れなかったらどうしようと心配だったが、いろいろな人に教えてもらって覚えられた。
- ・ 御八日踊りでは、地域の人の前で踊ったのではずかしかったけれど、たくさんの方から「がんばれ」「上手だね」が聞こえてきて最後までしっかり踊れた。
- ・ なかなか上手に踊れないけれど、保存会の方に教えてもらってがんばれた。
- ・ 文化祭では緊張したけれど、踊っているとだんだん楽しくなってきた、精一杯踊れた。
- ・ 去年の運動会は雨で種子島踊りを踊れなかったけれど、今年は一生懸命できて良かった。
- ・ 先頭で踊るのは初めてだったので緊張したけれど、みんなを引っ張っていくことができた。
- ・ 最初はうまくできなくて踊るのがいやだったけど、やっぱりやってよかったなあとと思った。

【保存会】

- ・ 人前で踊ることには恥ずかしさもあると思うが、中にはこの動きはどうすればいいかといったことを尋ねる児童もいて、熱心な気持ちはうれしい。
- ・ 先輩方そして自分たちも踊ってきた種子島踊りを残していかなければという想いで子供たちに指導している。自分たちが指導しているこの児童たちが、やがてまた地元で次の世代に教えていってほしい。